

特色ある教育課程の編成と実施

特色ある教育課程の編成・実施にかかわる校長のリーダーシップ

I はじめに

各学校では、それぞれの教育活動をすすめるに当たり、生徒の「生きる力」をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開している。その中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくむとともに、生徒が主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めているところである。

その際、学校や地域や生徒の実態に応じて、いかに適切な教育課程を編成するかが重要である。そこで、校長は学校や地域の実態等に応じて学校教育目標を設定し、それぞれの学校が抱える課題や保護者や地域の学校への思いを大切にしながら、その具現化に取り組む必要がある。

東山梨地区8中学校では、本地区の特色ある教育課程の編成と実施にふれながら、それにかかわる校長のリーダーシップについて研究を行い、本年度は継続研究の2年目である。

II 研究の概要

1 研究のねらい

東山梨中学校8校の教育課程編成・実施の現状を把握し、校長としての役割を整理し、特色ある教育課程編成・実施にかかわる校長のリーダーシップを明らかにする。

2 1年次の研究内容

(1) 教育課程の編成・実施にかかわる校長の役割を次の5つに分類し、果たすべき役割を明確にすることができた。

- ①明確なビジョンの提示と共通理解を図るための工夫
- ②教職員とのコミュニケーションづくり
- ③校長としてのリーダーシップの発揮
- ④学校評価の積極的な公表
- ⑤その他

(2) 東山梨中学校校長会の考える「特色ある教育課程編成・実施にかかわる校長のリーダーシップ」を次の4つに分類するとともに、以下のように集約した。

- ①教職員の組織的な取り組み
- ②学習規律の確立
- ③集団づくり

④部活動の活発化

「校長として確固たる経営理念を持ち，経営ビジョン，課題意識を教職員と共有し，また保護者，地域，関係機関と連携しながら，目標達成に向かつての取り組みを計画的に組織すること」

3 2年次の研究内容

1年次の成果と課題を踏まえ，2年次は，以下の研究について，各校の実践発表を中心に研究を深めることとした。

①学校評価から各校の課題を明確にし，経営理念を確立するとともに，一層充実した学校経営を行う。

②校長のリーダーシップとマネジメントの関わりを研究する。

III まとめと課題

(1)「学校評価から各校の課題を明確にし，経営理念を確立するとともに，一層充実した学校経営を行う」ことについて

①学校評価，生徒・保護者アンケート，学校関係者評価等を通して，自校の成果と課題を明確にすることができるとともに，学校・家庭・地域が課題意識を共有して一緒になって改善を図ることができる。

②評価項目は，基本的な事柄や該当年度の重点事項等に絞り，より具体的な内容を挙げるのが大切である。それにより，取り組み事項の細かな検証と具体的な方途を考えることができる。

③評価結果とその内容から，何を生かし，具体的にどのような手立てを行うのか，実践への筋道を明確にすることが重要となる。

(2)「校長のリーダーシップとマネジメントの関わり」について

①学校評価を活用することは，マネジメントにおいても欠くことのできないことであり，学校内外の環境の分析，学校の実態を分析することが学校づくりをデザインする一歩となる。

②学校課題を共有化・意識化しても，行動化することは難しい。校長自らが学びながら，教育活動の組織化をリードする立場にある者として，いかにリーダーシップを発揮するかが重要である。

③各校の工夫や生徒・地域の実態に即した特色ある取り組みについて，多くのことを学ぶことができた。校長会としての連携をさらに深め，東山教育のさらなる充実を図っていきたい。

④「教育活動の組織化をリードする校長像」(校長の専門職基準2009年版一求められる校長像とその力量—日本教育経営学会)を参考に，校長のあるべき姿を追求するとともに教育活動の質の改善を図っていきたい。

(部長 堀内 浩)